

日本研究・知的交流事業概観

1——日本研究機関の支援

各国において日本研究の中核的な役割を担う機関が、その研究基盤を強化し優れた人材を育成できるよう、各機関が必要とされるさまざまな事業への支援を実施しました。2007年度より、各機関のニーズに応じて、客員教授派遣、研究・会議助成、教員拡充助成、図書拡充などを組み合わせて、包括的な支援を行うシステムに移行しています。

①米国、カナダ、中南米地域における機関支援 [16機関]

米国…コロラド大学／バージニア大学／ハワイ大学／アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター／北米日本研究資料調整協議会など

中南米…エル・コレヒオ・デ・メヒコ／メキシコ工科大学／サンパウロ大学／ブラジリア大学など

②アジア・大洋州地域における機関支援 [26機関]

東アジア…ソウル大学／南開大学／復旦大学／モンゴル国立大学など

東南アジア…インドネシア大学／チュラロンコン大学／タマサート大学／フィリピン大学／マラヤ大学／ハノイ国家大学など

南アジア…ジャワハルラル・ネルー大学／デリー大学

豪州…オーストラリア国立大学

③欧州・中東・アフリカ地域における機関支援 [23機関]

欧州…ミラノ国立大学／ヴェネチア大学／サラマンカ大学／ルーヴァン・カトリック大学／タシケント国立東洋学大学／ザグレブ大学／ソフィア聖クリメント・オフリドスキ大学など

中東…バグダッド大学／テヘラン大学／アインシャムス大学など

④北京日本学研究所事業

北京外国語大学に設置された北京日本学研究所に対して、日本人教授など、のべ15名を派遣して講座の運営を行ったほか、大学院生およびスタッフ22名の日本への招へい、研究・出版に対し支援を行いました。また北京大学に設置された現代日本研究センターに日本人教授のべ11名を派遣したほか、大学院生・講座関係者24名を日本に招へいしました。

2——日本研究フェローシップ

長期……学者・研究者82名(28カ国)・博士論文執筆者101名(30カ国)

短期……研究者35名(19カ国)

国際交流基金は、設立当初より日本に関わる研究を行う学者・研究者を日本に招へいするフェローシッププログラムを実施しており、これまでに4,500名以上が海外から日本を訪れて研究や調査を行い、日本の専門家との人的ネットワークを築いています。2009年度は上掲の通りのフェローが日本での調査研究活動を行いました。また、その研究成果の発表の場として、公開講座(フェローセミナー)を本部と京都支部で企画実施しました。

3——日本研究ネットワーク強化

支援……9件

国および専門分野を越えた日本研究者の横断的な協力・連携ネットワーク形成のため、次のような支援を行いました。

日本研究者の集まる日本関連学会の年次総会の開催

中国での日本研究調査の実施とともに、東南アジア各国と日本との相互理解の促進を目的に、ASEAN諸国の元日本留学生会の活動を支援しました。

4——知的交流会議などの開催・支援

国際会議・知的対話事業の企画・実施…25件

会議開催経費・参加者旅費の支援…81件

世界・地域の共通課題に取り組むため、以下をはじめとする知的交流事業の開催と支援を行いました。

①中国知識人グループ招へい(2009年11月、2010年1月)

中国の主要な知識人と、日本側関係者との将来につながる知的ネットワークの構築を目的とする事業。従来日本とのつながりが少なかった中国の知識人8名のグループを9日間招へいし、日本人研究者との意見交換・各種機関訪問・地方都市訪問などを実施しました。

②社会的企業を巡る日韓対話(2010年1月28日～29日)

日本と韓国で、社会のさまざまな問題に取り組むために社会的企業を立ち上げて運営している実践者および社会的企業の研究者などが一堂に会し、ソウルで会議および公開シンポジウムを実施しました。社会の構造が比較的似ている日韓両国で類似の問題に携わる関係者同士の対話の場として、有益な事業となりました。

③中東知的交流巡回セミナー(エジプト、バーレーン 2010年3月)

「国の発展と環境とのバランス～過去の経験を未来に生かす～」をテーマに、日本の有識者2名をエジプトとバーレーンに派遣し、日本の戦後の産業発展と環境破壊の克服についての紹介や日本の伝統的エコシステムの一例である里山とアラビア半島の伝統的自然資源管理「ヒマ」の対比を現地の政府関係者、学者、研究者および学生とともにしながら、急速な発展にともない環境負荷が増加している同地において、発展と環境のバランスをいかに構築するかについて議論を行いました。

④日亜交流シンポジウム(2010年1月15日)

日本とアルゼンチンの文化交流の進展と相互理解促進のため、両国から文学、芸術、メディアなどの異なる分野に携わる有識者を招き、両国間の文化交流をめぐる今後の展望について話し合うシンポジウムを、都内にて開催しました。日本・アルゼンチン双方の外務省、在日アルゼンチン共和国大使館、在アルゼンチン共和国日本大使館との共催で行われました。

⑤ジョン・ホールデン講演会(2010年3月6日)

英国の代表的シンクタンクDEMOSのジョン・ホールデン元文化部長の来日の機会に、国際交流基金、ブリティッシュ・カウンシル、企業メセナ協議会が共催し、同氏の講演と国内有識者とのパネルディスカッションを行いました。テーマは「文化外交は今後誰がどのように、そして何のために推し進めていけばよいのか」。外交の場面においてますます重要性を増している文化の役割について、白熱した議論が展開されました。

⑥米国ジャーナリズム専攻大学院生招へい事業(2009年8月16日～25日)

米国エマーソンカレッジに対する助成事業として、米国の大学でジャーナリズムを専攻する大学院生を、プロのジャーナリストになる前の段階で日本に関する認識を深めてもらうことを目的に、10日間、日本に招へいしました。参加者は、外交、経済、市民活動などの専門家と対話を重ねました。帰国後「ジャーナリストとしての原点を確認した」等の感想が参加者から寄せられ、日本の報道機関に就職する者も出るなど成果があがっています。

⑦東南アジア若手イスラム知識人グループ招へい(2009年11月)

インドネシア、マレーシア、フィリピンでイスラム研究を専門とする若手大学講師7名が、日本を例にとった社会の近代化とイスラムの調和をテーマに、日本の研究者による講義および意見交換を通して日本理解を深めました。また、2010年3月にはインドネシア・ジャカルタの国立イスラム大学において、7名の参加者によるセミナーの形式でフォローアップ事業を実施し、研究者、学生を中心とした聴衆に日本での体験を還元することができました。

5——知的交流フェローシップ

招へい……23件

日本との知的対話のネットワーク構築を目的として、現代社会の共通の課題を研究する東欧、中東、およびアフリカ地域の人文・社会科学の若手研究者に、訪日調査、研究の機会を提供しました。

6——知的リーダー交流

「アジア・リーダーシップ・フェロープログラム」は、アジア各国で活躍する知識人に日本からの参加者を加えた合計7名が、東京で2カ月間をともに過ごしつつ対話を重ねる事業。参加者は、グローバルな課題などについて専門家のレクチャーを受けるとともに、集中的な意見交換を行うことにより、日本の関係者との、そして参加者間のネットワークを形成しました。また、地方都市訪問などの各種プログラムを通して、日本社会・文化に関する理解を深めました。

7——東南アジア地域研究センター支援

東南アジア人による東南アジア研究の促進と域内の人材育成、また関係機関同士のネットワークの構築を目的とする東南アジア研究地域交流プログラム(SEASREP財団主催)を支援しました。

8——日米センター

主催・共催……15件

①安倍フェローシップ

日米の研究者など14名にフェローシップを供与し、現代の地球規模

の政策課題で緊要の取り組みが必要とされる問題に関する調査研究を促進し、日米の新しいパートナーシップとネットワーク形成を推進しました。またジャーナリストによる、より掘り下げた調査研究を通じて、日本および米国の相互理解に貢献する報道を支援する安倍ジャーナリスト・フェローに4名を採用しました。

②日米草の根交流コーディネーター派遣(JOI)プログラム

日本との交流機会が比較的少ない地域における草の根レベルの交流や日本理解の促進を目指し、新たに5名のコーディネーターを派遣しました。

③そのほか「日本-日系人交流促進プログラム」「国際関係論専攻大学院生招へいプログラム」「世界災害語り継ぎフォーラム」などを実施しました。

助成

①助成プログラム

「外交と安全保障：伝統的および非伝統的アプローチ」「グローバル経済、地域経済の抱える課題」「市民社会の役割」の3つを対象領域として日米の団体が共同で実施するプロジェクトを募集し、17件に対して助成を行いました。そのほか、米国における小規模助成を45件(知的交流助成4件、草の根交流2件、日本理解促進39件)実施しました。さらに企画参画型助成の枠などで17件を助成しました。

②日米交流強化イニシアチブ

2007年11月の福田総理(当時)訪米の際に発表された「日米交流強化イニシアチブ」(知的交流、草の根交流および日本語教育の強化の3本柱)の一環として、米国の5つのシンクタンク(戦略国際問題研究所、アメリカン・エンタープライズ研究所、ブルッキングス研究所、外交問題評議会、ランド研究所)に対する助成を行っているほか、米国の日米協会支援(8件)および在米日系人との交流強化事業を実施しています。

9——カルコン

日米文化教育交流会議(The United States - Japan Conference on Cultural and Educational Interchange: 略称CULCON: カルコン/米側事務局は日米友好基金: Japan-US Friendship Commission)は、2009年6月に東京で、フルブライト-カルコン合同シンポジウム「日・米ソフトパワー: 地球的課題への取り組み」を開催し、日米の政府関係者、経済界、学会、メディア、文化芸術団体、NPOおよびアジアのフルブライト奨学生および同窓生を含む約300名の参加を得ました。

[左] 欧州評議会との共催で専門家の招へいとシンポジウムを行った事業「インターカルチュラル・シティと多文化共生」報告書
[中] フリードリッヒ・エーベルト財団(ドイツ)との共催で東京で行なわれたシンポジウム「未来の子ども、子どもの未来」報告書
[右] 東南アジア若手イスラム知識人グループ招へいの成果をまとめた報告書

